

## 波浪 NO 657号 協会病院労働組合ニュース

6/20 ヘルスケア労協(協病労組、全済生会労組、日赤労組などで組織する労働組合の全国組織の協議会)の中央委員会を札幌市で開催

6/21 連合北海道とヘルスケア労協、協病労組各支部から集まった仲間との意見交換会を開催 組合員を増やすには、SNSの活用が必須ではないか？今の若者は、SNSで情報を得ている。労組も新しい専門部の立ち上げが必要ではないか？(意見交換会に参加した若い組合員の意見より)

2026年6月24日発行 協病労組教宣部

ヘルスケア労協に結集する全国の仲間から協病労組に寄せられた「頑張れ」のメールに感謝！！

日時：2026年6月21日(土)13時～17時、22日(日)9時～12時 場所：北農健保会館

普段は、3～4か月に1回、東京で開催されているヘルスケア労協の中央委員会を、今回は札幌市で開催することとなりました。なぜか？協病労組に元気がないから、組織率が低下しているから、全国のヘルスケア労協に結集する仲間が心配をしていたから。協会病院で働く仲間に、労働組合活動の楽しさや大変さ、労働者同士が団結することの重要性がより増してきている時代状況をどう伝えればよいか。どうすればより多くの方々に労組に加盟してもらえるか、二日間にわたり議論しました。

場を設定すればいろんな意見が生まれてくる —この時代に労組に加入する若者はセンスがいい—

- 労組の活動の中で、みんなで集まって議論ができて、食事もできて、お酒を飲んだりできて良かった。とにかく楽しいことが大事。
- コロナパンデミックの時代に、青春時代を過ごしてきた人たちが現場に入ってきている。実はみんなでワイワイしたい人たちが結構いると思う。お金は掛かるが、そういう機会を根気よく提供していけば、組合員も増える可能性はあると思う。非組のお友達もお試しで参加できるとか。
- 今の若い人はサブスクに慣れ親しんでいる。組合員を増やすのであれば、労組にも準会員、正会員、プレミアム会員などのくくり(ここからのコンテンツは〇〇会員から)があってもいいのでは。
- 労組の活動の有用性と、何か(春闘など)を成し遂げたときの達成感や、キャンプや旅行や飲み会などの楽しい活動をどう非組合員にPRするか？ YouTube動画をまわしてはどうか？
- 旗とか少し怖い。書記長っていうポジションは労組以外では身近にはないのでなんかこわい、連帯とか、団結とか言われてもちょっと…。もっとカジュアルなワードはないか？ 連帯より共感のほうがなんとなくいいのではないか？
- 職場オルグで経験したことだが、労働組合のことを右翼だと思っていたという意見もあった(連合プロパー談)。今の若い人たち、おもしろ～

今どきの若者も十人十色、夜の交流会も(意外と)盛り上がった

連合北海道のオルグナイザーたちの話では、今の若者は飲み会に誘っても参加しないし、無理強いすると何でもハラスメント認定されてしまいかねない。我々世代の労組オルグの定番は「ボーリング大会と飲み会」であったが、今はどうしたらいいのか？ 結局、労組の組織率はユニオンショップ制(社員であることと労組員であることがセットであるという労使協定が締結されている会社)を導入しているところ以外(よってオープンショップ⇔出入り自由の労組)増えていない現状をどう改善していくか？という労組プロパーとしての苦悩を述べられていた。今回参加した協病労組の若い組合員たちは、すぐに打ち解け、楽しそうに、食べ、飲んで、肩を組んで先輩方もも携帯で写真を撮ったりしていた。「今どきの若者は」と十把一絡げにしてはダメなのだなあと改めて思えた。

やっぱり青婦部の活動(の経験)は大事なように思う 出会いはマッチングアプリだけではさみしい

「今どきの若者」は、と言っただけとはいけないのだが、おじさん世代から見ていると集団で何かを成し遂げた経験みたいなものがあまりないのではと思ってしまう。勉強して、いい学校、いい会社に入って、男であれば専業主婦付きサラリーマンで、子供が二人ぐらいいて、老後もストックオプションで安泰みたいな、理想の昭和すごろく的世界観はもうないだろう。勉強して、まあまあの学校に入って、運よく正職員で採用され、結婚しても共働きで、やっと子供を一人前にして、老後を迎える頃には年金暮らしで、どこか体調が悪いというのが一般的な人生であるというのが大体は見えていて、やっぱり若いうちに、みんなで何かをやった経験は多少なりともあった方がいいと思う。学生であれば部活とか、生徒会とか、クラス役員で文化祭とか、スポーツ大会とかを企画・運営した経験があれば、職場に労組がある場合、少しは入る動機もありそうだが…。(次ページへ続く)

「いや、俺、そういうの、違うので」、「組合に入るメリットは何ですか?」、「仕事以外であまり苦労したくないので」、いやいや違うでしょ。学生時代みんな議論をし、みんなのために何かを作り上げた経験(達成感)ぐらいはあるでしょ? え、ないの? まあ職場の先輩方の多くが組合に入っていないので仕方がないことだが(それだけ恵まれてきたのだが)、これからは誰かと助け合わなければ生きてはいけない時代に突入するよ。賃労働で勝ち組なんて中々ないから。そこを目指すにしても、一度は労働組合の機能に触れておいたほうがいい。若者よ労組へ入ろう~

## 6月22日、連合北海道主催の『医療職場の意見交換会』(札幌市で開催)参加報告

ヘルスケア労協として協病労組から2名参加。北海道医療勤務環境改善支援センターの職員からの実践報告(ある病院の看護部長さんから頼まれた看護部の業務改善事例報告)がありました。そのパワポの表題が『今ある人員・仕組みで出来る看護部の業務改善』となっていました。

アナムネーゼの情報や患者アセスメントを入退院支援センターの看護師や外来の看護師に作成してもらい、入院の説明等を動画で患者さんに見てもらうことにより、「(病棟の)患者と向き合う時間が増えたと喜ばれた」、「現場の師長さんも、管理する部長さんも大変頑張った」と講師の方は結論付けられていた。あらまあ? 「日本の看護労働はかなりまずいところまで来ているなあ」という印象を強く受けてしまった。

これから自分が勤務する病棟に入院する患者に対し、自身で看護を、またチームで看護管理をしてその患者の回復を支えるために必要となる重要な情報収集(アナムネーゼ)やアセスメントを、他部署の看護師にさせておいて、患者と向き合う時間が増えたと一体どういうことなのか? 「その程度のフォーマット化された情報でしかアナムネーゼはないのですよ~」と言うなら、その程度の情報収集で看護を論理的に展開していこうという考えそのものが甘いのではないか(ヘンダーソンやゴードンが泣いてしまうぞ、ナイチンゲールが生きていたら…めっちゃ怒るぞ、知らんけど)。インテークも取らないで、クライアントを担当するソーシャルワーカーがいるだろうか?

(今の連携室化された中にいればあり得るかも。これでは質の高いケースワークは無理だろう)他人が書いた設計図で、建築家を名乗る者がいるだろうか?(2×4住宅のように最初からパッケージ化された建築物ならあり得るかも)

### 結局タスクシフトとは、ただの専門性の切り売りにすぎないのではないかな?

医療勤務環境改善支援センターのような第3セクター的機関が、しかも連合(労働組合)の集会で、業務改善と称しての実践報告(アドバイザーは、業務改善を進めるための考え方を提供。キーワードは、費用を掛けない、自分たちでできる)を、成功事例(結局、改善と評価されている中身は、トゥーマッチコンプラ化した医療業界における紙ベースでの説明の多さを、デバイスを持たされた作業に変換していることと、他部署の看護師に業務を一部丸投げしているだけ)として紹介しているこの状況を、明らかな政策誘導を、看護職の皆さんはどうお考えになるのでしょうか? 合理化された業務(患者の入院時の情報収集時間)も患者と接している時間である。

業務独占が許されている国家資格者がその業務を切り売りすることは、ただただ専門職としての社会的価値を毀損するだけではないのか。それを自ら実践しておいて、「賃金が低いからあげろ」は社会的に通用するのだろうか。別に毀損しているわけではない、むしろ推進されるべきことだと思ふというのであれば、日本の看護職(専門職)は、一体何を指すのでしょうか? 教えてほしい

現状、タスクシフトとやらがどうしても必要だとしても、せめてタスクシェアぐらいの表現(結局、看護職以外に業務を転換できていない)にとどめるべきではないのか。業務改善を自分たちでするとしたら大人になってもやめられない(看護部内の)委員会活動をまずは廃止してはどうか?

### 「業務改善とは何か」を分からない人たちが現場のマネージャー職や部門の統括をしてはいけない

厳しく目標管理がなされている企業であっても、「お金を掛けずに業務改善をしろ」などということはあり得ない(短期的には損失が出て中長期的なベネフィットを得ること以外に、業務改善は必要ないからです。そうじゃないなら、日々のマネジメントがただ頓馬なだけなので、問題がそもそも違います)。もし、現場から乞われて(仕方なく)第3者が看護現場にアドバイスを送るなら、医療安全対策のように、工学的なアプローチでの助言のほうが現場の役に立つのではないかな。或いは「師長さん、労働組合に入って、経営と団体交渉で対峙してみれば、業務改善をどう進めればいいのか分かりますよ」くらいは言ってほしいものだが…しかも労組の集まりに呼ばれているのに。こういった趣旨で講師に質問を試みたが、どこその記者会見のようにかわされてしまった。そういったテンプレ的な言い回し(私が、その質問についてお答えしたり、評価したりする立場にはありません)が流行っているのかな? 以上、(個人的な)感想を述べさせていただきました。